

1. 第3回日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会 開催報告

「看護シミュレーション教育の挑戦」をテーマとして、大川宣容大会長のもと、第3回日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会をオンライン開催した。令和2年度に日本在宅ケア学会学術集会で獲得したオンライン開催のノウハウを最大限に生かして、オンライン開催期間（令和4年2月11日～3月6日）と、Live配信（令和4年2月19日）を設けることにより、オンラインの良さを駆使して準備と運営にあたった。

卒業生や修了生、在学生等多くの方々にご協力いただき、312名の参加を得た。

1)組織

大会長：大川宣容

運営委員長：佐東美緒

企画委員：岩本由美、神家ひとみ、田中雅美、西内舞里、前田留美、増野園恵

実行委員：井上正隆、内川洋子、瓜生浩子、神家ひとみ、源田美香、小原弘子、坂元綾、
嶋岡暢希、高橋真紀子、瀧めぐみ、竹中英利子、田中雅美、中井美喜子、西内舞里、
藤村真紀、益宏美、森本紗磨美

運営事務局：株式会社ユピア

（下線が学外メンバー）

2)企画・運営

企画委員会の他、学内検討会やWeb上でのLive配信シミュレーション、発表者の事前操作確認などを行い、オンライン上で参加者が交流できるような工夫、オンラインではあるが臨場感のある運営となるよう検討を重ねた。



配信会場：実習室



打ち合わせを兼ねた運営準備

3)プログラム

- ・会長講演 「シミュレーション教育の挑戦」
大川宣容（高知県立大学看護学部）
- ・基調講演 「教育デザイン研究の理論と実際」
鈴木克明（熊本大学教授システム学研究センター・大学院教授システム学専攻）
- ・教育講演 「認知科学的観点から考える熟達化支援」
鈴木宏昭（青山学院大学 教育人間科学部教育学科）
- ・特別講演 「シミュレーションリサーチグループの日本での活用」
Bette Mariani 先生（Villanova University Fitzpatrick College of Nursing）
前田留美先生（東京医科歯科大学）
- ・シンポジウム
「看護学生から看護師へのトランジションを支援するシミュレーション教育の可能性」
座長：増野園恵（兵庫県立大学地域ケア開発研究所所長）
浅香えみ子（東京医科歯科大学医学部附属病院病院長補佐 看護部長）
演者：増野園恵（兵庫県立大学地域ケア開発研究所所長）
坂本静香（訪問看護ステーションちかもり）
藤野ユリ子（福岡女学院看護大学シミュレーション教育センター長）
内藤知佐子（京都大学大学院医学系研究科）
- ・委員会企画
- ・産学連携委員会企画
「実写映像や Computer Graphics 等を活用したシミュレーション教材の可能性」
村田洋章（防衛医科大学校看護学科）、阿部幸恵（東京医科大学看護学科）
岡谷恵子先生（四天王寺大学）、浅川 翔子（慶應義塾大学看護医療学部）、
安井 大輔（東海大学医学部看護学科）、永井 菜穂子（防衛医科大学校看護学科）
- ・研修企画委員会企画
「改訂ほやほやの INACSL の Standards で Simulation Design を学ぼう！」
阿部幸恵（東京医科大学看護学科）ほか
- ・特別企画「看護基礎教育課程における学生の看護実践能力（コンピテンシー）に関するアセスメントと評価」
Rosemary Samia 先生（University of Mass. Boston College of Nursing and Health Sciences）
- ・一般演題 30 演題 優秀演題賞 3 題選出
- ・交流集会 2 題
- ・Nursing Learning Café 中高生企画
「先輩と学ぼう、語ろう、看護シミュレーション教育の実際！」

4) Live 配信の様子

	 <p>基調講演「教育デザイン研究の理論と実際」</p>
 <p>教育講演「認知科学的観点から考える熟達化支援」</p>	 <p>特別講演「シミュレーション・リサーチ・ループリックの日本での活用」</p>
 <p>シンポジウム「看護学生から看護師へのトランジションを支援するシミュレーション教育の可能性」 卒業生の坂本静香さんがシンポジストとして発表</p>	 <p>一般演題もオンデマンド+Live でのディスカッションを行った</p>
 <p>Nursing Learning Cafe 中高生企画「先輩と学ぼう、語ろう、看護シミュレーション教育の実際」中高生 24名が3大学の大学生、大学院生とオンライン上で交流した</p>	 <p>スタッフのチームワークで、トラブルなく運営を終えた</p>

5)成果

全国から 312 名の参加があり、盛会のうちに終えることができた。11 の企業や団体からご協賛いただいたこと、非会員の参加者が予定より多かったこと、会場費が抑えられたことにより、損失が生じることなく運営できた。

メインテーマ「看護シミュレーション教育の挑戦」に沿って、看護シミュレーション教育の限界を超え可能性を模索するヒントとなるように、また基礎教育のみでなく現任教育にも活用していけるようにプログラムを構成した。参加者のアンケート結果では、「シミュレーション教育の取り組みの実際や課題、世界的な動向や日本の今後の方向性などとても勉強になりました」や「シミュレーション教育の多様性と内容の深さを感じています」「シミュレーション教育について教育実践と研究の 2 方面から理解を深めることができました」などの回答があり、学習者の立場から学びを支援する取り組みや、シミュレーション教育の評価や今後の研究の方向性について活用できる企画内容であったと評価している。

また、一般演題では「ちょこアピがわかりやすかった」、「今後の自分の授業に活かせる内容であった」、「セッションで交流できてよかった」、「オンデマンドで質問・感想のやりとりできた」などの感想があり、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、実習方法や演習形態を迷いながら変更してきた参加者それぞれが自分自身の教育実践に意味づけをしたり、授業方法へのヒントを得ていた。

運営面では「オンラインではあったが臨場感も感じられた」「進行が分かりやすかった」「オンデマンドで裏番組も見られるのでよかった」「移動時間がとられずよかった」などオンライン開催の利点を最大限に生かすことができた。一方、「司会と演者のボリューム調整は課題である」という回答もあり、音響の調整は課題である。